日本的情報	李良	4 苯合苯									
日本日			一一一一一	開講年度		2027十/文)					
選挙			000=			TAIDE ()	±-55 /	N, like			
野田						1	·				
		-	1	<u> </u>		1					
部語の表別				4							
四日							2				
接直標							する				
通の側面接続分割に関する最終的な気を正確に理解でき、要称できること た	担当教員		山口 智浩	,松尾 賢一,松村 寿	持枝,内田 眞司,山口	賢一,岡村 真吾,本同	間 啓道,上野 秀	剛,岩田 大志,市川 嘉裕			
た自分の考えた内容を管備区 (条素 できること) レーブリック 関連的な制度レベルの目安 共和項目1 東邦で記載された書籍や治文法論 文、関係会議機構の内容が理解で、会に最近れた書籍や治文法論 文、関係会議機構の内容が理解で、会に最近れた書籍や治文法論 文、関係会議機構の内容が理解で、会に最近れた書籍や治文法論 文 関係会議機構の内容が理解で、会に最近れた書籍や治文法論 を	到達目	標									
理想的公別達レベルの自安					理解でき, 要約でき	ること.					
	ルーブリ	リック									
検索 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大				理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
学生課程 (木料1~5年) 学習教育目標 (2)	評価項目1			文, 国際会議原稿の内容が理解でき, 自分に研究に関する図・表などのキャプションが英語で表現で		文, 国際会議原稿の内容が理解		英語で記載された書籍や論文誌論 文, 国際会議原稿の内容が理解で きない.			
学生課程 (木料1~5年) 学習教育目標 (2)	学科の	到達日樗I	百日との関係	<u> </u>		•					
接着し、											
接妻			ラナ/ ナロ	<u>хпыж (4)</u>							
2	<u> </u>	広守	=#		₩	manuta / mare - 나-+**	- ±0=# =/_^				
接触性 実施に一般科目	既要		る.本講義	『では,技術者として必要な英語による科学・技術文献等や各種資料を理解する,英語による技術発表の実践』							
要語(一般科目), 卒業研究, 専門科目全般 学習指針 基本的な語彙、英文誘解および英作文の知識や専門用語を始め, 各自の研究テーマに関する基礎知識が必要である。また、講義におり高議に積極的に参加することも重要である。 自己学習 各テーマに沿って指導教員から配布された論文や参考資料をよく理解しておくこと。 事前学習: 文献に対する他の学生と自分の解釈との違いの差をしっかり埋めること, 不明な点は議論を適じて理解を求めること。 で表のること。 学修単位の履修上の注意 「元の作工業外国語に関する交赦を事前の論文の誘わ込んでおくこと。 「元・単に直訳するだけでなく、研究全体の内容を把握し、文章の意図を読みこなし、研究内容についてしっかり議論できるように文献調査を行っておく。 定要の属性・履修上の区分 コーアクティブラーニング ロー ICT 利用 ロー 遠隔授業対応 ロー実務経験のある教員による授 要業計画 「担 倫議 A研究室単位で指定された英籍文献を読み、正しく主解することができる。16週まで同じ) コアクティブラーニング ロー ICT 利用 ロー 遠隔授業対応 ロー実務経験のある教員による授 要業計画 「担 倫議 A研究室単位で指定された英籍文献を読み、正しく主解することができる。16週まで同じ) コ アクティブラーニング ロー ICT 利用 ロー 遠隔授業対応 ロー 実務経験のある教員による授 の表研究室単位で指定された英語文献を読み、正しく主解することができる。16週まで同じ) コ アクティブラーニング ロー ICT 利用 ロー は 同上 ロー	授業の進	め方・方法									
基本的な語彙、英文競解名法に対係で次の知識や専門用語を始め、各自の研究テーマに関する基礎知識が必要である。また。				设科目),卒業研 3	究,専門科目全般						
た。講義における議論に積極的に参加することも重要である。			学習指針_	r 	1 - N++ //						
自己学習			基本的な語彙,英文読解および英作文の知識や専門用語を始め,各自の研究テーマに関する基礎知識が必要である.;								
事前学習:文献内容の理解と調査をしっかりを行っておく 事後展開学習:文献に対する他の学生と自分の解釈との違いの差をしっかり埋めること,不明な点は議論を通して理解を深めること.	注音占		に、 連我に		哑的に参加9ること	も重要である.					
事後展開学習:文献に対する他の学生と自分の解釈との違いの差をしっかり埋めること,不明な点は議論を通じて理解を深めること。 京られた工業外国語に関する文献を事前の論文の読み込んでおくこと。 末、単に直転するだけでなく、研究全体の内容を把握し、文章の意図を読みこなし、研究内容についてしっかり議論できるように文献調査を行っておくこと。 夏業の属性・履修上の区分	注意点		自己学習				TELEPIN TO THE A TO THE	. 1.			
を深めること	注意点		自己学習				理解しておくこ	<i>ا</i> خ.			
学修単位の履修上の注意	注意点		自己学習各テーマの事前学習	二沿って 指導教員 : 文献内容の理解。	から配布された論文 と調査をしっかりを	てや参考資料をよく! 行っておく					
京京られた工業外国語に関する文献を事前の論文の読み込んでおくこと 下次・単に直訳するだけでなく、研究全体の内容を把握し、文章の意図を読みこなし、研究内容についてしっかり議論できるように文献調査を 京丁のティブラーニング	注意点		自己学習各テーマの事前学習事後展開会	こ沿って 指導教員 文献内容の理解。 学習:文献に対す	から配布された論文 と調査をしっかりを	てや参考資料をよく! 行っておく					
だ. 単に直訳するだけでなく、研究全体の内容を把握し、文章の意図を読みこなし、研究内容についてしっかり議論できるように文献調査を 打っておくこと。 受業の属性・履修上の区分		ᅛᇝᇛᄵᆝ	自己学習 各テーマ(事前学習 事後展開き を深めるこ	こ沿って 指導教員 文献内容の理解。 学習:文献に対す	から配布された論文 と調査をしっかりを	てや参考資料をよく! 行っておく					
アクティブラーニング	学修単位		自己学習(各テーマ) 事前学習事後展開学を深めるで	ご沿って 指導教員 ・文献内容の理解・ 学習:文献に対する こと・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく! 行っておく 解釈との違いの差を					
選挙計画 週 授業内容 週ごとの到達目標 1週 輪講 祭することができる。16週まで同じ) 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単 (与えられ また, 単	た工業外国語に直訳するが	自己学習 各テーマに 事前学習 事後展開き を深めるこ 上の注意 語に関する文語	に沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する とと ばを事前の論文の	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を	そしっかり埋め	ること,不明な点は議論を通じて理解			
週 授業内容 週ごとの到達目標 名研究室単位で指定された英語文献を読み,正しく野解することができる。16週まで同じ) 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単化 与えられ また, 単 行ってお 授業の	た工業外国語 に直訳するか くこと。 属性・履修	自己学習(各) 事前学習事後展開き を深める を 上の注意 語に関するく, でなく, でなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたいことの区分	に沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する とと ばを事前の論文の	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし, 研究	をしっかり埋め	ること,不明な点は議論を通じて理解			
1週 輪講 名研究室単位で指定された英語文献を読み,正しく野解することができる。16週まで同じ) 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単作 与えられ また, 単 うってお 受業の「	た工業外国語 に直訳するか くこと。 属性・履修	自己学習(各) 事前学習事後展開き を深める を 上の注意 語に関するく, でなく, でなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたいことの区分	に沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 文献に対する 文献に対する	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし, 研究	をしっかり埋め	ること,不明な点は議論を通じて理解			
1週 輪講 名研究室単位で指定された英語文献を読み,正しく野解することができる。16週まで同じ) 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単位 ラえられまた、単 ラってお 受業の原 ファクラ	た工業外国語 に直訳するがくこと。 にくこと。 属性・履信 ティブラーニ	自己学習(各) 事前学習事後展開き を深める を 上の注意 語に関するく, でなく, でなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたしてなく, できたいことの区分	に沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 文献に対する 文献に対する	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし, 研究	をしっかり埋め	ること,不明な点は議論を通じて理解 しっかり議論できるように文献調査を			
1stQ 1stQ	学修単作 与えられ また,単 行ってお 授業の原 コ アクラ	た工業外国語 に直訳するがくこと。 にくこと。 属性・履信 ティブラーニ	自己学習(各テーマ) 事前学習事後展開きを深める。 上の注意 語に関する文章だけでなく、	二沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 文献に対する 文献に対する 文 武を事前の論文の 研究全体の内容を	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし,研究	そしっかり埋め 究内容について	ること,不明な点は議論を通じて理解 しっかり議論できるように文献調査を			
1stQ 4週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単位 ラえられまた、単 ラってお 受業の原 ファクラ	た工業外国語 に直訳するがくこと。 にくこと。 属性・履信 ティブラーニ	自己学習 各テーマに 事前学習事後展別を を深める。 上の注意 語に関するく、 を上の区分	正沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 文献に対する 文献に対する 文と	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし,研究	をしっかり埋め 究内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で	ること,不明な点は議論を通じて理解 しっかり議論できるように文献調査を			
1stQ 4週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単位 ラえられ また,単 テってお 受業の原 コ アクラ	た工業外国語 に直訳するがくこと。 にくこと。 属性・履信 ティブラーニ	自己テーマの 自己テーマの 事後でである。 上の注意 語にはでなる。。 多上の区分 こング	三沿って 指導教員 ・文献内容の理解 ・文献に対する ・文献に対する ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ できる ・ でき	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし,研究	をしっかり埋め に内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
5週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単位 ラえられ また,単 テってお 受業の原 コ アクラ	た工業外国語 に直訳するがくこと。 にくこと。 属性・履信 ティブラーニ	自己学習(各) 新後深める 記憶に関するく、 (を) との注意 語にけでなく、 (を) として (を)	正沿って 指導教員 ・文献内容の理解 ・文献に対する ・文献に対する ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ できます。 ・ できまする。 ・ できます。 ・ できまする。 ・ できままする。 ・ できまする。 ・ できまする。 ・ できまする。 ・ できまする。 ・ できままする。 ・ できまままする。 ・ できままする。 ・ できままする。 ・ できまままままする。 ・ できままままする。 ・ できまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし、研3	をしっかり埋め 究内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
6週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単位 ラえられ また,単 テってお 受業の原 コアクラ	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	・	三沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 文献に対	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし、研究	をしっかり埋め に内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
万週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 日上 日上	学修単位 ラえられ また,単 テってお 受業の原 コ アクラ	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	・ 日本	正沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 文献に対	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし、研究	をしっかり埋め 究内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
8週 同上 同上 同上 同上 10週 同上 11週 同上 11週 同上 12週 同上 13週 同上 14週 同上 15週 同上 16週 日上 日上 日上 日上 日上 日上 日上 日	学修単位 ラえられ また,単 テってお 受業の原 コ アクラ	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	自各事後の注意 事事を対してでなる。 を上の区分を上がります。 1 週 1 週 2 週 3 週 4 週 5 週 1 週 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1	正沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 文献に対	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし、研究	をしっかり埋め で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
9週 同上 同上 同上 同上 10週 同上 11週 同上 12週 同上 13週 同上 同上 14週 同上 15週 同上 15週 同上 16週 同上 16週 同上 16週 同上 16週 同上 16週 同上 日上 日上 日上 日上 日上 日上 日上	学修単位 ラえられ また,単 テってお 受業の原 コ アクラ	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	### 1	三沿って 指導教員 ・文献内容の理解 ・文献内容の理解 ・学習: 文献に対する ・と ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし,研究	をしっかり埋め 院内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
2ndQ 10週 同上 同上 11週 同上 同上 12週 同上 同上 13週 同上 同上 15週 同上 同上 16週 同上 同上 16週 同上 同上 第 分野 学習内容と到達目標 到達レベル 授業週 基礎的能力 人文・社会 英語 単元 英語運用の 基礎となる 関き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 全部を含める。 まった、音のつかがりに配慮して、音話もろいけ来話できる。	学修単作 ラえられ また、単お 受業の ファクラ 受業計	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	A	三沿って 指導教員 ・文献内容の理解 ・文献内容の理解 ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ できる ・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を ・を読みこなし、研3	をしっかり埋める 院内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で解することがで 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
2ndQ 11週 同上 同上 13週 同上 同上 14週 同上 同上 15週 同上 同上 16週 同上 同上 三デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 類 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 基礎的能力 人文・社会 英語 基礎となる 関き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 全部できる。 2	学修単作 ラえられ また、単お 受業の ファクラ 受業計	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	A	正沿って 指導教員 ・文献内容の理解 ・文献に対する ・文献に対する ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ できます。 ・ できまする。 ・ できます。 ・ できまます。 ・ できます。 ・ できます。 ・ できます。 ・ できまます。 ・ できまままままます。 ・ できまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を ・を読みこなし、研3	をしっかり埋める 窓内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
2ndQ 12週 同上 同上 13週 同上 同上 14週 同上 同上 15週 同上 同上 16週 同上 同上 三デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 対類 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 基礎的能力 人文・社会 英語 基礎となる 関き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 全部できる。 2	学修単作 ラえられ また、単お 受業の ファクラ 受業計	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	A	正沿って 指導教員 ・文献内容の理解・ ・文献内容の理解・ ・文献に対する ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ できます。 ・ はを事前の論文の ・ 研究全体の内容を ・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし、研究	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
2ndQ 13週 同上 同上 14週 同上 同上 15週 同上 同上 16週 同上 同上 三デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 基礎的能力 対策・社会 英語 基礎となる 関き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 基礎となる 関き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 意味を含いけ来まできる。	学修単作 ラえられ また、単お 受業の ファクラ 受業計	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	## A Para Para Para Para Para Para Para Pa	正沿って 指導教員 文献内容の理解 文献に対する 可言いまする 可言いま	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし、研究	をしっかり埋める で内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 解することがで 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
13週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単作 ラえられ また、単お 受業の ファクラ 受業計	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履作 ティブラーニ	A	正沿って 指導教員 文献内容の理解 文献でする 文献に対する 文献に対する 文本で 文献に対する 文がに対する である である である はでする である である はでする である はいは、はいます。 である はいます。 である はいます。 である はいます。 はいまする。 はいます。 はいまする。 は	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を を読みこなし、研究	をしっかり埋めて で内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
15週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同	学修単作 ラえられ また、単お 受業の ファクラ 受業計	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履信 ティブラーニ 画 1stQ	A	三沿って 指導教員 ・文献内容の理解 ・文献内容の理解 ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ できる ・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をしっかり埋めて で内容について 週ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
16週 同上 同上 同上 同上 同上 同上 日上 日上	学修単作 与えられ また、単お ででである。 でである。 でである。 でである。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履信 ティブラーニ 画 1stQ	A	三沿って 指導教員 ・文献内容の理解を記さい。 ・文献の神子宮・・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 対類 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 基礎的能力 人文・社会 対党 英語 関き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 基礎となる 2	学修単作 与えられ また、 まお でででで 受業の でででで ででででする。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履信 ティブラーニ 画 1stQ	A	三沿って 指導教員 ・文献内容の理解を記さい。 ・文献の神子宮・・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
対類 分野 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 英語運用の 基礎となる 聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 2 2 2	学修単作 与えられ また、 まお でででで 受業の でででで ででででする。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履信 ティブラーニ 画 1stQ	A	正沿って 指導教員 ・文献内容の理解を対象と、 ・ 文献の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を ・を読みこなし、研3	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
対類 分野 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 英語運用の 基礎となる 聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ 2 2 2	学修単作 与えられまた,単行ってお 行ってお 授業の原	た工業外国語に直訳するが くこと・ 属性・履信 ティブラーニ 画 1stQ	A	正沿って 指導教員 ・文献内容の理解 ・文献 文献に対する ・文献の理解 ・ 文献に対する ・ 文献に対する ・ でまる ・ では、 でものの ・ では、 では、 でものの ・ では、	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を ・を読みこなし、研3	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
英語運用の 基礎的能力 対党 英語 基礎となる 聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネ ま	学修単f 5 表 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	た工業外国語に直訳するが にでは、 にでは、 にでいる。 にでい。 にでい。 にでいる。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にてい。 にてい。 にてい。 にてい。 にてい。 にてい。 にっと。 にっ。 にっと。 にっと。 にっと。 にっと。 にっと。 にっと。	A	正沿って 指導教員 ・文献内容の理解・ ・文献 文献に対する ・文献の理解・ ・ できる。 ・・	から配布された論文 と調査をしつかりを る他の学生と自分の 読み込んでおくこと 把握し、文章の意図	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を ・を読みこなし、研3	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること,不明な点は議論を通じて理解しつかり議論できるように文献調査を しっかり議論できるように文献調査を 」 実務経験のある教員による授 標			
は礎的能力 入巻・仁本 英語 基礎となる 即ピチャにはわるよう、り・えにむりる拳体的なクムムディンドネ 2	学修 与またって 授 一 授 一 世 が が が が が が が が が が が が が	た工業外国語に直訳するが にでは、 にでは、 にでいる。 にでい。 にでい。 にでいる。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にてい。 にてい。 にてい。 にてい。 にてい。 にてい。 にっと。 にっ。 にっと。 にっと。 にっと。 にっと。 にっと。 にっと。	A	正沿って 指導教員 ・文献内容の対対で ・文献内容の対対で ・文献の ・文献の ・文で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・	から配布された論文 と調査をしっかりを る他の学生と自分の 読み込んでおくこと 把握し、文章の意図	てや参考資料をよく。 行っておく 解釈との違いの差を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研究室単位で 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること、不明な点は議論を通じて理解しっかり議論できるように文献調査を □ 実務経験のある教員による授 標 指定された英語文献を読み、正しく共きる。16週まで同じ)			
	学 与またっ 授	た工業外国語に直訳するが くこと. 属性・履作 ティブラーニ 画 1stQ	A	正沿って 指導教員 ・文献内容 (対する) ・文献内容 (対する) ・文献内容 (対する) ・文献内容 (対する) ・文献内容 (対する) ・文本 (対する)	から配布された論文と調査をしつかりをる他の学生と自分の読み込んでおくこと四世を表し、文章の意図を表し、文意のを表し、文を表し、文意のを表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文	てや参考資料をよく 行っておく 解釈との違いの差を ・を読みこなし、研3	をしっかり埋める で内容について 過ごとの到達目 各研することがで 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	ること、不明な点は議論を通じて理解しっかり議論できるように文献調査を 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 措定された英語文献を読み、正しく理 きる。16週まで同じ) 授業週			

				明瞭で聞き手に伝れ クセントの規則を習	つるような発話ができる。 3得して適切に運用できる	 よう、英語の発音 る。	音・ア	2	
				新出語彙、及び専門 切な運用ができる。	D定着を図り、高等学校等 引教育に必要となる英語駅	専門用語を習得し	ノて適	3	
					や文構造に加え、高等学校 習得して適切に運用できる		こ準じ	3	
					どの予備知識のある内容や どを毎分120語程度の速度 なることができる。			2	
				英語でのディスカッ 、教室内でのやり耳 きる。	ッション(必要に応じてデ なりや教室外での日常的な	ィベート)を想定 な質問や応答なる	Eして どがで	2	
				英語でディスカッミ 学生自ら準備活動だ。	ション(必要に応じてディ ♡情報収集を行い、主体的	ベート)を行うたりな態度で行動で	こめ、 できる	3	
				母国以外の言語やな で英語で円滑なコミ	文化を理解しようとする。 ミュニケーションをとる。	と勢をもち、教室 ことができる。	室内外	2	
			英語運用能力向上のための学習	関心のあるトピック	フについて、200語程度 <i>0</i> 理的文章の構成に留意して)文章をパラグラ	ヺプラ きる。	3	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前6,前 9,前10,前 11,前12,前 13,前14,前 15,前16
					7や自分の専門分野のプレ 頭発表や、内容に関する船 3。			3	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前8,前 9,前10,前 11,前12,前 13,前14,前 15,前16
					フや自分の専門分野に関う レ、必要な情報を読み取る			3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				や口頭発表用の資料	D専門分野に関する論文の 科等の作成にもつながる。 ける基礎的な語彙や表現る	よう、英文テクニ	ニカルー	3	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前8,前 9,前10,前 11,前12,前 13,前14,前 15,前16
				実際の場面や目的に (ジェスチャー、ア 切に用いることがで	に応じて、効果的なコミニ イコンタクト、代用表現できる。	1二ケーション7 、聞き返しなど	5略)を適	3	
	工学基礎	グローバ! ゼーション ・異文化: 文化理解	ブローバリン ゼーション ・異文化多 文化理解		或の経済的・社会的な発展 支術者の責任ある行動にご			3	前1
評価割合			•						_
			文献の内容の理	解度と発表内容	議論への参加度	合詞	 計		
総合評価割合	総合評価割合				30 100				
総合能力			70 70		30 100		0		